

第1章 上野公園の現状と特性

1. 上野公園の歴史

上野の台地は武蔵野台地の東端にあたり、古代より人々の生活の場となっていた。江戸時代には、上野の山全域において東叡山寛永寺の造営が始まり境内が公開されると、上野の山は花見の名所として、不忍池は蓮の名所として賑わいを見せた。戊辰戦争により荒廃した上野の山は、太政官布達により日本で最初の公園のひとつになった。日本で最初の博覧会である第1回内国勸業博覧会が開かれ、美術館・博物館・動物園などの文化施設が集積する今日の上野公園を形づくってきた。

表 1-1: 上野公園関連年表 (1/2)

時代(年代)	主な出来事			世の中の出来事
		施設の建立等に関する内容	催事・行事に関する内容	
～江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> 氷河期以降: 上野の台地は、東京湾に突出した半島であり、今の不忍池あたりの低地部は東京湾の入江で、奥まで海水が湾入し、日暮里や田端の裾は東京湾の波が岸を洗っていた。 縄文時代には、上野の縄文人は、上野・谷中の台地に住み、石器でイノシシやシカを狩り、魚介類を取り、ドングリ、トチ等の木の実を森に採りに行き、それらを食料として暮らしていた。 弥生時代になると、台地に挟まれた低湿地や入江で、水田耕作が始まり、集落がつくられる。 室町時代には、太田道灌が江戸城を築く。上野の地は中世以降、忍の岡、或いは忍の森と呼ばれ、武蔵野における歌枕となり、名勝の地として多くの歌に詠われていた。 			
寛永 2年	1625		「東叡山寛永寺」創建。(図 1-1)	1603年 江戸幕府開幕
寛永 8年	1631		「五重塔」奉納。	
寛永年間			天海僧正、京都滋賀の名所を上野に写し替える。水谷伊勢守、不忍池に中島を築き、「弁天堂」をつくる。	
寛文 6年 又は9年	1666		柏木大助の願い入れて、「時の鐘」が建立される。	1868年 戊辰戦争
元禄 11年	1698	一般江戸庶民の花見が許されるようになる。(図 1-2)	「根本中堂・瑠璃殿」完成	
	12年	1699	2月 茶屋の設置が許可される。(図 1-3)	
明治 元年	1868	上野山内の管理を「大蔵省 会計官」より「東京府」に移管。上野山内に大学東校の病院を建設しようとする計画がおきる(文部省)。	「清水堂」、「山王社」、「時の鐘」、「忍岡稲荷」、「大仏殿」、「慈眼堂」、「東照宮」、「五重塔」を残し、全て焼失し、廃墟と化する。	
6年	1873	1月 太政官布達第拾六号により、上野山一帯を公園と選定する旨、通達がなされる。	「黒門」が、袴腰から「東照宮鳥居」脇に移される。 10月 廃絶していた忍岡稲荷社が「花園稲荷」として再建される。	
8年	1875	上野山内に加え不忍池も公園地として併合、府下一の公園となる。	山王台に「彰義隊墓碑」が建立される。	
9年	1876	1月「東京府」から「内務省博物館」に移管。上野公園は、博物館所属の公園地となる。 1月 寛永寺領の諸院、徳川家墓所などが公園地から外れる。	4月「上野精養軒」開業 7月 大仏の下に、不忍池を一望できる「勝覧所」ができる。	5月上野公園開園式(天皇皇后の行幸啓)。
10年	1877		「教育博物館」(国立科学博物館の前身)竣工(現・東京芸大の地)	8月 第1回内国勸業博覧会。(図 1-5)
12年	1879	8月 前米国大統領グラント将軍の訪日歓迎会が開催される。(タイサンボクとロソクノ木を植樹する。)		
15年	1882	新橋 上野広小路間に馬車鉄道開通	3月「文部省博物館」(東京国立博物館の前身)開館 3月「上野動物園」を元寒松院跡の清水谷に開く。	
17年	1884	7月「上野馬車 駅舎本館落成式	11月 上野共同競馬場落成	
20年	1887		12月 図面取調掛は東京美術学校と改称し、現在地に移転	

* (財)東京都公園協会「上野公園ものがたり」(平成8年)を基に加筆



図 1-1: 歌川広重画「東都名所上野東叡山全図」(個人蔵) 上野の山全体が寛永寺の境内であった様子がうかがえる。



図 1-2: 「江戸風俗図巻・上野の図」(The British Museum) 上野寛永寺における花見の景。



図 1-3: 「江戸名所図会」 不忍池の蓮見茶屋の様子。



図 1-4: 歌川広重画「名所江戸百景 上野清水堂 不忍ノ池」(個人蔵) 清水観音堂から不忍池方面を見た様子。

表 1-2: 上野公園関連年表 (2/2)

時代(年代)		主な出来事	施設の建立等に関する内容		世の中での出来事
			施設の建立等に関する内容	催事・行事に関する内容	
明治	23年 1890	公園地は帝室「御料地」となり、宮内庁の管理下におかれる。(大正13年1月26日まで)	5月「奏楽堂」落成。 5月 明治20年に、東京音楽学校と改称し、現在地に移転		1894年 日清戦争
	31年 1898		12月「西郷隆盛像」除幕式		
	35年 1902		3月「帝室博物館」開館式披露		1904年 日露戦争
	42年 1909		2月「東京帝室博物館・表慶館」開館		
大正	3年 1914			3月 東京大正博覧会 (図1-6)	1914年 第1次世界大戦参戦
	5年 1916		4月 公園南入口にあった「三橋」を取り壊し、忍川が暗渠となる。		
	12年 1923	市民50万人が上野公園に避難する。			1923年 関東大震災
	13年 1924	1月 公園地が東京市に下賜され、「上野恩賜公園」となる。			
	14年 1925	上野駅の公園口ができる。			
	15年 1926		5月「東京府美術館」開館		
昭和	2年 1927	上野-浅草間に地下鉄開通。		4月 大正歴史博覧会。	
	5年 1930	1月 上野-万世橋間に地下鉄開通。	3月「上野図書館」新館落成。		
	6年 1931		3月「不忍池ボート場」開業。 11月「東京科学博物館」開館。		
	7年 1932	4月「国鉄上野駅舎」落成。			
	8年 1933	12月「京成電鉄上野地下駅」竣工。			1941年 太平洋戦争開戦
	21年 1946	戦災者救済会により、不忍池(蓮池)の水を落とし、水田とする。「上野田圃」と呼ばれた。			1945年 東京大空襲 同 8月15日 終戦 1946年 日本国憲法発布
	23年 1948	3月 上野鐘声会が「花咲き匂う上野の山」の復興を願って、1250本の桜を植樹する。		4月 グランド將軍植樹70周年記念祭 さくら祭	
	27年 1952		「上野植物園」拡張整備。 「東京科学博物館」が廃止となり、「国立科学博物館」が設置される。 西郷隆盛像下に戦後処理施設として「上野百貨店」が建設される。		
	28年 1953	竹の台周辺整備開始	4月「水上音楽堂」竣工。		1956年 都市公園法公布
	33年 1958	上野公園とその周辺に約500灯の水銀灯が新設される。	「弁天堂」落成。		
	34年 1959	3月 公園の夜間開放が許可。	6月「国立西洋美術館」開館		
	36年 1961		4月「東京文化会館」開館 11月「上野研修センター」新築 「上野植物園」に「いそづけ橋」が設置され、台上の東園と不忍池畔の西園を結ぶ。		
	37年 1962	5月 竹の台噴水テラス沈床芝生完成 (図1-8)			1964年 東京オリンピック開催
	40年 1965	「東照宮」が国の重要文化財に指定			
	43年 1968	4月 明治100年記念桜直樹			1970年 日本万国博覧会 (大阪万博)開催
	47年 1972	10月 上野植物園にバンダが到着する。	04月「上野の森美術館」開館		1972年 札幌オリンピック開催
	48年 1973		10月 開園100年記念「ボードウィン顕彰碑」建立。		
	50年 1975		9月「東京都美術館」新館開館		1975年 沖縄復帰開催
	51年 1976	7月「京成上野駅」改良工事竣工。			
	54年 1979		11月「国立西洋美術館新館」開館	11月 日中友好記念植樹式	
	55年 1980		10月「下町風俗資料館」開館		1985年 筑波万博開催
	62年 1987		3月「東京芸術大学日奏楽堂」移築復原		
	63年 1988		6月「水上音楽堂」改築竣工。		1995年 阪神・淡路大震災
平成	9年 1997		12月「国立西洋美術館企画展示館」竣工。		
	10年 1998		3月「東京芸術大学奏楽堂」竣工。		
	11年 1999		東京芸術大学大学美術館開館 10月「東京国立博物館平成館」開館		1998年 長野オリンピック開催
	12年 2000	10月「バンダ橋」竣工。			
	13年 2001	10月 旧岩崎臨時園開園			2005年 愛知万博開催
	18年 2006		10月 新ボードウィン博士像建立		



図 1-5:「上野公園地内国勸業博覧会開業図」(個人蔵) 第 1 回内国勸業博覧会の様子。



図 1-6:「東京大正博覧会のポスター」(個人蔵) 東京大正博覧会場の様子。



図 1-7:昭和 37 年以前の東京国立博物館前の様子。



図 1-8:現在の東京国立博物館前と竹の台噴水の様子。

2. 上野公園及び周辺地域の現状と特性

上野公園の将来像を検討するため、公園管理者や文化施設管理者などによる現状分析と、これまでに寄せられた来訪者の意見や要望を参考にし、上野公園と周辺地域が有する現状と特性を以下に示した。

① 豊富な歴史資源

上野の山と呼ばれる台地は、江戸寛永年間に寛永寺の境内地となり、大伽藍が建設された。その後元禄期以降に、桜ヶ岡が花見の場所として公開されると、桜の名所として賑わいを見せるようになった。また、不忍池は江戸随一の蓮の名所として賑わい、池畔には茶屋等が建ち並び、上野の山とともに江戸有数の行楽地となった。

上野公園及び周辺地域には、旧寛永寺五重塔や寛永寺清水堂等の重要文化財に指定された建造物がある。最近では、国立科学博物館日本館（旧東京科学博物館本館）が、平成20年6月に、重要文化財に指定された。また、国立西洋美術館本館は、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の構成遺産のひとつとして、フランス政府等各国共同で世界遺産登録手続きが進められている。春には花見の名所として約200万人の花見客が訪れるほか、牡丹展・さつき展・骨董市・うえの夏まつりが開催される等、下町独自の文化を活かした様々な行事や催事が催されている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が歴史や文化を感じにくくなっている。

<主な課題>

- 1) 歴史的資源や、かつて見られた歴史的景観が損なわれ、来訪者が歴史や文化を感じにくくなっている。
- 2) 歴史的建造物の保存管理が行き届いていない。
- 3) 下町文化を紹介する魅力ある催し等、ソフト面での施策が不十分である。
- 4) 来訪者への歴史や文化の案内や周知が不十分である。

参考：江戸時代における上野の山とその周辺を示した絵図



◇参考：上野公園及び周辺地域にある主な文化財

国指定	重要文化財	寛永寺清水堂	旧寛永寺五重塔	東照宮社殿
		旧東京帝室博物館本館	表慶館	旧十輪院宝蔵
		旧因州池田屋敷表門	旧東京音楽学校奏楽堂	国立西洋美術館本館
		寛永寺日本坊表門(黒門)	常憲院靈廟勅額門及び水盤舎	
		旧東京科学博物館本館	旧岩崎家住宅(東京都台東区池之端一丁目)	
都指定	有形文化財 旧跡	天海僧正毛髪塔	慈海僧正墓	了翁禅師塔碑
		虫塚	-	-
台東区	有形文化財(歴史資料) 史跡	彰義隊墓碑	-	-
		藤堂家墓所	-	-



寛永寺清水堂

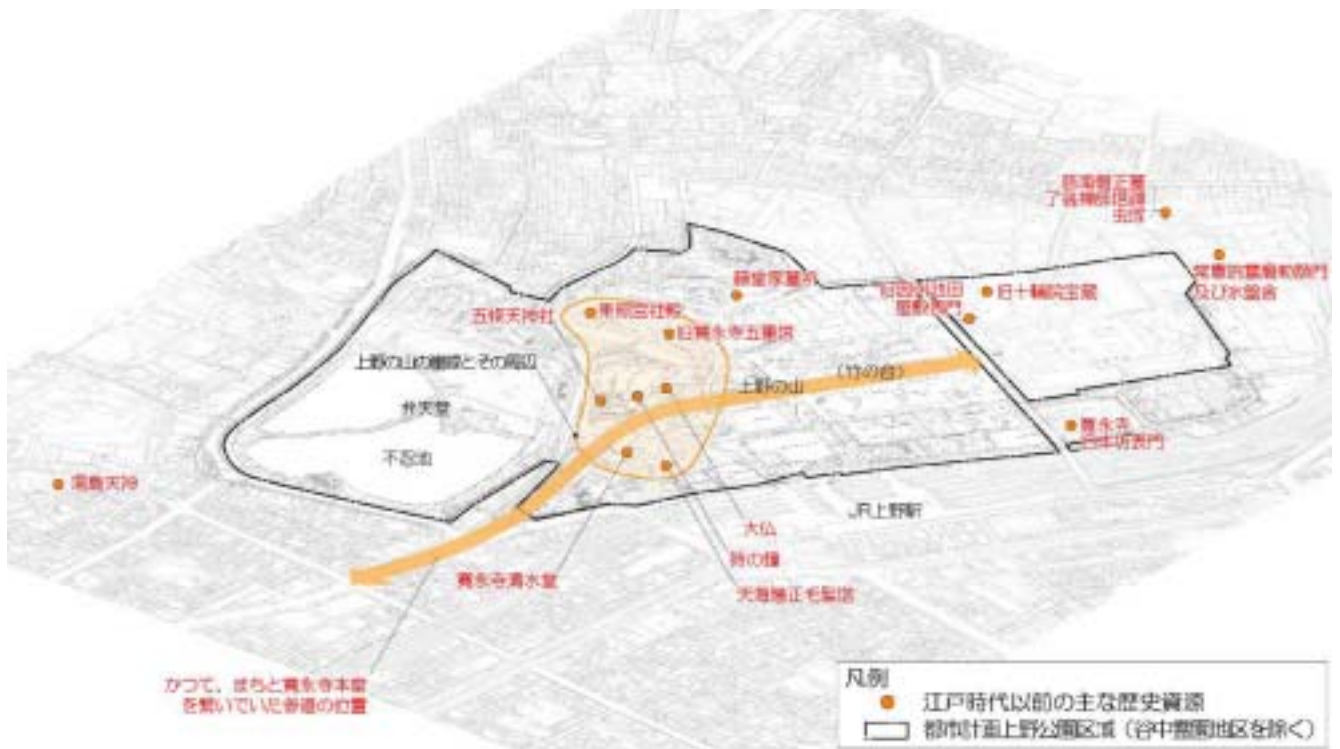


旧寛永寺五重塔



東照宮社殿

◇参考：歴史資源等の分布状況



図：江戸時代以前を起源とする主な歴史資源の分布状況

- ・ 不忍池に面する上野の山の崖線とその周辺に歴史資源が集積している。
- ・ まちと上野の山とを結ぶ旧寛永寺の参道を中心とした当時の地割が現在でも残る。

② 多様な文化施設の集積

明治時代になり、上野公園が開設されると、上野公園一帯は博覧会をはじめとする日本の国家的な文化行事の開催の場となった。その流れを受け継ぐように、博物館（東京国立博物館、国立科学博物館）、美術館（国立西洋美術館、東京都美術館等）、動物園（恩賜上野動物園）等の多様な文化施設が設置され、我が国を代表する文化施設が集積する地区になっている。

これらの文化施設では、質の高い芸術文化に親しむことができる展示・催事等が企画・実施されており、上野公園内の文化施設における年間利用者総数は約 1200 万人となっている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、個々の施設の展示や催事は魅力的であるが、地域としての総合的な取組がないため、文化施設の集積効果が活かされていない。

<主な課題>

- 1) 竹の台の噴水池が歩行者の動線を分断しているほか、鬱蒼とした樹林等により文化施設の存在が分かりにくい。
- 2) 各文化施設が柵で囲われ公園との一体感を阻害し、開放的ではない。
- 3) 展示や催しに関する情報が共有されておらず、上野公園全体としての情報発信がなされていない。

◇参考：上野公園及び周辺地域にある主な文化施設

東京国立博物館	恩賜上野動物園	日本学士院会館	横山大観記念館
国立科学博物館	区立下町風俗資料館	国際子ども図書館	旧岩崎邸庭園
国立西洋美術館	上野の森美術館	黒田記念館	
東京都美術館	旧東京音楽学校奏楽堂	東京藝術大学美術館	
東京文化会館	日本芸術院会館	東京藝術大学奏楽堂	



東京国立博物館



国立科学博物館



国立西洋美術館



東京都美術館



東京文化会館



恩賜上野動物園



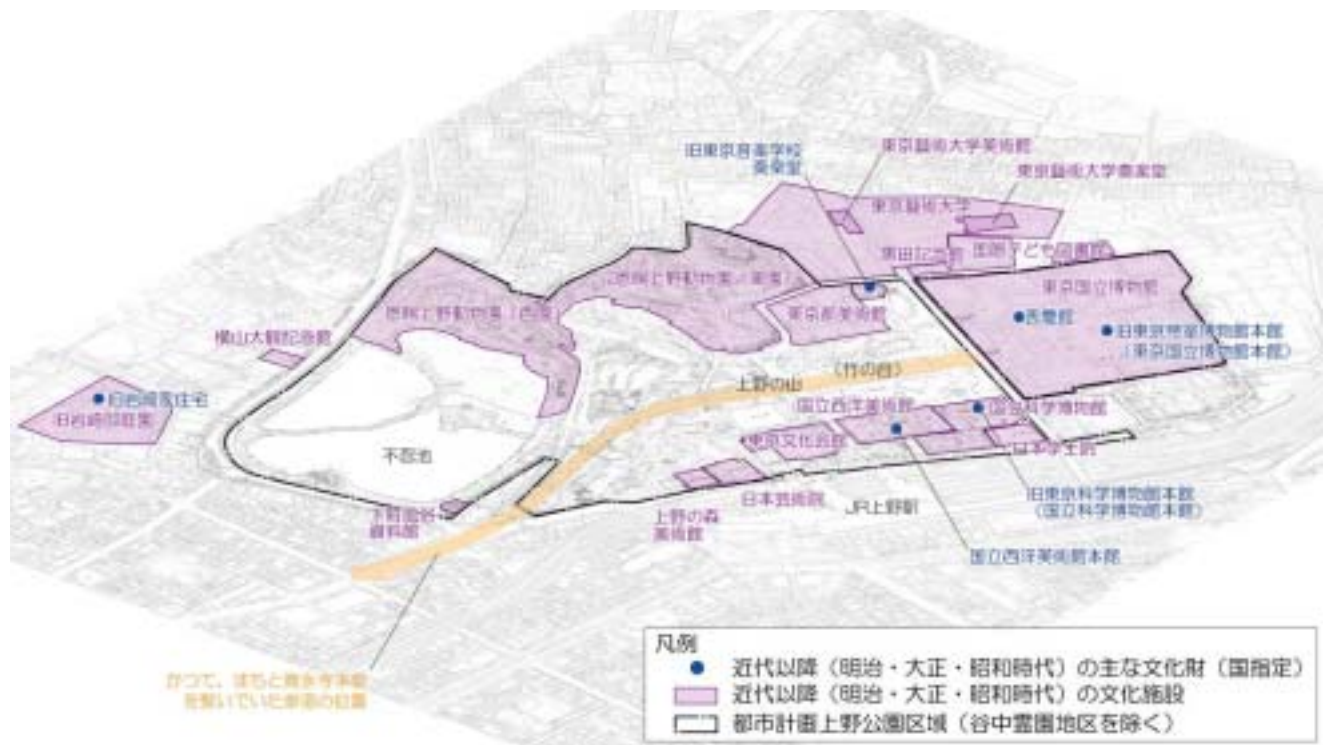
区立下町風俗資料館



上野の森美術館



旧東京音楽学校奏楽堂



図：近代以降（明治・大正・昭和時代）を起源とする主な歴史資源と文化施設の分布状況

- ・上野の山の中心となる竹の台の周辺に文化施設が立地している。
- ・旧寛永寺の参道の延長上に国指定重要文化財である東京国立博物館本館が立地している。

③ 豊かなみどりと水辺空間

江戸時代から、上野の山は花見の名所として親しまれた。不忍池は蓮見・月見・雪見等の景勝地として親しまれ、不忍池周辺には茶屋が建つ等、江戸有数の行楽地であった。

上野公園は、明治に入ると我が国で最初の公園として開設され、現在においても、都心における水とみどりのオアシスとして、蓮や桜の花見の他、散策や野鳥観察等自然とのふれあいの場となっている。また、台地上の園地には桜が並木状に広がり、台地と不忍池の間の崖線には、かつて海辺だった時代の名残と考えられるタブノキが数少ないものの保全されている。時代の経過とともに上野公園の樹林は成長し、都心における貴重で豊かな森を形成してきた。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が豊かなみどりと水辺空間に親しむことができなくなっている。

<主な課題>

- 1) 桜の老木化や蓮の密集により名所としての魅力が低下している。
- 2) 樹木が密生し、暗く鬱蒼とした樹林となっている。
- 3) 来訪者が散策をしたり、くつろぎ憩える場所が少ない。
- 4) 不忍池周辺の建築物の高層化や高密度が進み、かつて不忍池が持っていた広がりのある景観の魅力が稀薄になっている。

◇参考：上野の山と不忍池への眺望



上野の山と不忍池

④ 個性豊かな特色あるまち

上野公園の周辺には寛永寺、湯島天神等の歴史ある社寺をはじめ、国際子ども図書館、東京藝術大学、旧岩崎邸庭園等、我が国を代表する文化施設が立地する。また、上野公園南側には多くの来訪者を集め、活気と賑わいをみせる上野の商店街など大規模商業地が広がり、北側には下町情緒を今に伝える街並みが残されている谷中・根津・千駄木地域がある。このように、多様な街並みや文化を来訪者が享受し楽しめる場所が上野公園の周辺地域には数多くある。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が目的地にスムーズに移動ができない等、公園と周辺のまちとを気軽に行き来できなくなっている。

<主な課題>

- 1) 公園や周辺のまちに、来訪者を誘導する案内やサインが不足している。
- 2) 地形による高低差や長い移動距離が来訪者の負担になっている。
- 3) 上野の山と不忍池の連続性に欠ける。
- 4) 不忍池を一周することができない。

◇参考：上野公園の周辺地域の様子



(左上) 袴腰周辺
(左下) 上野の商店街
(右) 谷中・根津のまち

⑤ 多数の来訪者

上野公園とその周辺地域には、多くの観光客が訪れており、上野公園内の文化施設だけでも、平成18年度には年間利用者総数は約1200万人を超えている。また、国内では都内のみならず全国から人々が訪れ、海外からはアジアをはじめとした各国から来訪するなど、非常に広範囲にわたる地域や国々から訪れるとともに、利用者の年齢層の幅も非常に広がっている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が安全・安心して、快適に公園を利用することができにくくなっている。

<主な課題>

- 1) JR上野駅公園口と公園が分断され、来訪者は安全で快適に公園にアプローチできない。
- 2) 鬱蒼とした樹林により、夜間、安心して利用できない。
- 3) 車いす対応をはじめとするユニバーサルデザインの導入が立ち遅れている。
- 4) 文化施設や公園施設等に関する情報提供が不十分である。
- 5) 来訪者が、みどりの中で、ゆったりと落ち着いて休憩や食事等を楽しめない。
- 6) ホームレスや違法屋台等により快適な公園利用が損なわれている。